



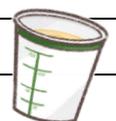
血液検査結果の見方



診察室で手渡された血液検査結果と一緒にご覧ください。手渡された結果にL（低い）H（高い）と表示されているのは、基準値より低い、もしくは高いことを示しています。
基準値は正常値ではありません。基準値は当院基準のものであり、他院とは異なる場合もあります。一つの検査結果だけを見て判断するのではなく、検査結果を総合的に見て判断する必要があります。ご不安な点がございましたら、主治医にご相談ください。

	検査項目	基準値	単位	項目説明
血液	白血球数	3500~9700	/ μ l	細菌などの異物から体を守る働きをしています。感染症や炎症、何らかの原因で臓器に障害が起きると増加します。ストレスや喫煙で増加することもあります。
	赤血球数	男性：438~577 女性：376~516	$\times 10^4$ / μ l	肺で取り入れた酸素を全身に運ぶ働きをしています。血色素量・ヘマトクリット値とともに貧血の有無などを判断します。貧血ではいずれも低い値となります。
	血色素量	男性：13.6~18.3 女性：11.2~15.2	g/dl	赤血球中にある鉄を含む物質で、体中に酸素を運ぶ役割をします。ヘモグロビンとも呼ばれます。
	ヘマトクリット値	男性：40.4~51.9 女性：34.3~45.2	%	血液中の赤血球の占める割合です。
	MCV	男性：83~101 女性：80~101	fl	平均赤血球容積。赤血球1つあたりの大きさを表します。
	MCH	男性：28.2~34.7 女性：26.4~34.3	pg	平均赤血球血色素量。赤血球1つあたりに含まれるヘモグロビンの量を表します。
	MCHC	男性：31.8~36.4 女性：31.3~36.1	g/dl	平均赤血球血色素濃度。赤血球1つあたりに含まれるヘモグロビンの濃度を表します。
	血小板数	14.0~37.9	$\times 10^4$ / μ l	止血に重要な役割をはたします。極端に減少すると出血しやすくなります。
白血球像	好中球	42.0~74.0	%	体の免疫の主役となる血球です。感染や炎症で増加します。
	好塩基球	0.0~2.0	%	アレルギー反応に関わっています。
	好酸球	0.0~7.0	%	アレルギー反応に関わっています。花粉症などで増加します。
	リンパ球	18.0~50.0	%	体の免疫機能に関わっています。ウイルス感染などで増加します。
	単球	1.0~8.0	%	体の免疫機能に関わっています。
脂質	総コレステロール	150~219	mg/dl	ホルモンや細胞の膜を作る重要な材料になります。多すぎると動脈硬化を起こす原因になるため注意が必要です。
	中性脂肪	50~149	mg/dl	アルコールや糖分の取りすぎ、運動不足で増加します。数値が高いと動脈硬化の大きな危険因子になります。また、食事の影響を受けやすく食後は高値を示します。
	HDLコレステロール	男性：40~80 女性：40~90	mg/dl	善玉コレステロールとも呼ばれます。全身の組織から余分なコレステロールを肝臓に運ぶ働きをしています。
	LDLコレステロール	70~139	mg/dl	悪玉コレステロールとも呼ばれ末梢組織にコレステロールを運ぶ働きをします。数値が高いと動脈硬化の大きな危険因子になります。女性は更年期を機に増加する傾向にあります。
腎機能	尿素窒素	8.0~20.0	mg/dl	蛋白質の老廃物で、肝臓で作られ腎臓から排出されます。腎臓病や脱水などで高値となります。
	クレアチニン	男性：0.65~1.09 女性：0.46~0.82	mg/dl	腎機能の指標として用いられます。筋肉の最終代謝産物であり筋肉量に影響されるため男性の方が高値を示します。
	eGFR	60以上		性別・年齢・クレアチニン値から計算される腎臓のろ過機能の指標。数値が低いと腎機能が低下していることを意味します。

	検査項目	基準値	単位	項目説明
肝臓・膵臓機能	総ビリルビン	0.3~1.2	mg/dl	肝臓や胆道の疾患、赤血球の破壊（溶血性疾患）で高値になります。黄疸の指標となります。
	AST	10~40	U/l	肝臓・心臓・筋肉・腎臓に多く存在する酵素で、これらの臓器が障害されたときに上昇します。AST・ALTともに肝障害の時に上昇しますが、ASTは心臓や筋肉の病気でも上昇します。
	ALT	5~45	U/l	
	LDH	120~245	U/l	広く全身の細胞に含まれる酵素です。肝臓病、心臓病や血液の病気など様々な病気で高値となります。
	ALP	38~113	U/l	主に肝臓から胆汁中に排泄される酵素です。主に肝臓病や胆石症などの胆道系の病気で高値となります。骨の病気や甲状腺機能亢進症でも高値となることがあります。
	γ-GTP	男性：79以下 女性：48以下	U/l	肝臓や胆道の病気で上昇します。特にアルコール性肝障害や脂肪肝で高値となります。
	総蛋白	6.5~8.2	g/dl	血液中の蛋白質の量を測り、栄養状態や肝臓・腎臓の障害を判断します。
	アルブミン	3.8~5.2	g/dl	肝臓で合成され血液中で最も多く含まれる蛋白で、栄養状態の指標となります。
	アミラーゼ	39~134	U/l	膵臓や唾液腺などに含まれる酵素で、膵臓や唾液腺の病気などで上昇します。
	HBs抗原	(-)		B型肝炎ウイルスに現在感染しているかを調べます。
HCV抗体	(-)		C型肝炎ウイルスに感染しているかを調べます。	
代謝系	血糖	70~109	mg/dl	血液中のブドウ糖の量を調べます。食事の影響を強く受けるため空腹の状態で行います。
	HbA1c	4.6~6.2	%	過去1~2ヶ月の平均血糖値を反映します。糖尿病の診断とコントロールの指標となります。
	尿酸	男性：3.6~7.0 女性：2.7~7.0	mg/dl	蛋白質の一種であるプリン体の代謝産物です。値が高いと痛風や尿路結石の原因となります。
免疫	CRP	0.30以下	mg/dl	感染症などの急性の炎症や組織の破壊がおけると上昇する蛋白の一つ。
電解質	ナトリウム	135~145	mEq/l	体内の水分バランスの調節に重要な役割を果たしています。脱水などで上昇し、腎臓病、ホルモン異常、塩分摂取不足や利尿薬の内服などで低下します。
	クロール	98~108	mEq/l	
	カリウム	3.5~5.0	mEq/l	神経伝達や筋肉の運動の調節に重要な役割を果たしています。腎臓病などで上昇し、利尿薬の内服などで低下します。
その他	CK	男性：50~230 女性：50~210	U/l	筋肉に多く含まれている酵素です。筋肉に障害がある場合や激しい運動後にも高値となります。
	カルシウム	8.6~10.2	mg/dl	生体内で最も多量に存在する骨の主成分です。腎臓の病気、骨や腸管、ホルモン異常などで異常値を示します。
	無機リン	2.5~4.5	mg/dl	カルシウムの次に生体内に存在する無機物です。内分泌、骨代謝の異常を調べます。
尿定性	蛋白	(-) ~ (±)		尿中に蛋白が出ているかを見ます。腎機能のスクリーニング検査です。激しい運動後にも尿に蛋白が出ることがあります。
	糖	(-)		尿中に糖が出ているかを見ます。糖尿病のスクリーニング検査です。
	ウロビリノーゲン	N		肝臓、胆道系疾患のスクリーニング検査です。
	ビリルビン	(-)		肝臓、胆道系疾患のスクリーニング検査です。
	ケトン体	(-)		糖尿病のスクリーニング検査です。長期の飢餓状態や下痢、嘔吐などでも陽性となります。
	比重	1.000~1.030		尿の濃縮度がわかります。
	潜血	(-)		尿路（腎臓、尿管、膀胱）からの出血を見ます。
	PH	5.0~7.5		尿の酸性度を表します。動物性食品を多くとると酸性に傾きます。



※スクリーニング検査：病気を早期に発見するための簡単な検査のこと